

日本で買い物

Sarah Douglass

Westminster School
South Australia, Australia



学習者年齢： 16才
日本語レベル： 中級
文化面の目的： ボディー・ランゲージを学ぶ
買い物をするときのマナーを学ぶ
学習する日本語： 買い物に関連した表現
“いくらですか”

学習目標

- ・日本に関する情報の収集、交換をし、コミュニケーション能力を養う。
- ・家にある日本製品を持ってきたり、商店や食べ物の種類、買い物の仕方に見られる日本の文化について学習したりして、社会文化的な知識を深める。
- ・買い物で使われる決まり文句を覚え、場面や人間関係に応じた言葉の使い方を学習し、言語と結び付いた文化的側面を理解する。
- ・情報を収集したり、ひらがなで文章を書くことを通じて日本語の勉強の仕方を身に付ける。
- ・輸入品と国産品の価格差について学び、一般教養を広げる。

授業の進め方

- <用意する物>
- ・日本のお菓子などの商品の箱
 - ・和服
 - ・ビデオカメラと三脚
 - ・日本語の表現リスト

かしこまりました、こちらでございます、どうもありがとうございました、またおしくささい、なにをおさがしでしょうか、ラッピングしましょうか、おつりでございます、すみません、ほか

<進行方法>

1. ペアを組んで、食べ物の値段を尋ねる練習をする。

2. グループになって販売員と客の会話を作り、その会話をひらがなで書き留める。
3. 作った会話を使って、グループごとに発表する。
4. ビデオに撮った発表を見ながら、直すべき点について話し合う。

<ロールプレイの一例>

日本に滞在中のオーストラリア人2人が東京駅の構内にいる。2人が大阪行きの列車のホームと時刻について駅員に尋ねると、「日本語がお上手ですね」という決まり文句を言われる。次に、別の日本人に売店の場所を尋ねると、一緒に売店へ行ってくれる。売店に着くと、その日本人は先に弁当を買って去って行く。オーストラリア人の1人が、のど飴があるかどうかを販売員に尋ね、値段を聞いてから買う。もう1人は、チョコレートを買う。おつりをもらい忘れて売店から立ち去ろうとすると、販売員が「すみません」と言って呼び止める。

生徒の意見・反応

(「」内は生徒の言葉)

- ・「実生活を体験できる」
- ・「構文や文法の授業から離れて、一休みできる」
- ・「楽しみながら、習ったことを練習できる」
- ・「いつもと違った授業で、楽しかった」
- ・日本的な動作やマナー、日本語の

せりふを使って買い物を体験し、楽しむことができた。各自が場面を実演することで、文化理解が深まった。

- ・日本へ旅行したことがある7人の生徒が、ほかの生徒に体験談を話すことができた。

特に生徒の興味をひいたのは、

- ・買い物は日本人の楽しみであり、日本の旅行者が必ず買い物をすること
- ・空港に着いたときから周りが店ばかりだということ
- ・教師が日本へ行ったときに集めたお菓子の箱や日本の紙幣、小銭であった。

外国語学習と文化理解

買い物をテーマに取り上げた理由は、体験学習をしやすいからである。買い物の場面を実演することを通じて日本の品物に触れたり、オーストラリアとは違った食べ物を味わったり、学習した日本語(数や敬語)を応用するなど、教科書から離れた変化のある授業ができる。